

藍との出会い

篠路天然藍染協議会 代表 おがさわら 小笠原 よし たか 善孝

北区の藍の歴史

北区の藍の歴史は、明治15年、徳島県から、北の大地での大規模農業を夢見た一団が篠路村（現在の篠路や拓北・あいの里地区などを含む一帯）に移り住むところから始まります。その中心人物が滝本五郎でした。滝本は、篠路に移り住む前年に、北海道の農場開拓のため弟と「興産社」という会社を設立しました。

その当時の篠路は、木々や笹の根がうっそうと生い茂っている荒地でした。そこで、滝本たちは、まず、土地を開墾し、そこにソバや豆類、トウモロコシ、そして、故郷の特産物である藍を植えました。



滝本五郎

当時の冬は雪が多く寒さも厳しいものでした。また、夏の干ばつなど天候不順は作物の出来不出来に大きな影響を与えました。さらに、ヒグマの襲来やバッタの大発生など多くの困難に直面しました。

そのような中、滝本たちは、数々の困難を乗り越えて藍栽培に成功します。そして、明治18年には、藍の葉を加工して作る藍染めの染料である「すくも」の生産を開始し、翌19年には全国に販路を広げ、北海道において将来が期待される産業へと成長していきました。生産開始からわずか5年目の明治23年には「内国産業博覧会」に出品した「藍玉」（すくもを丸く固めたもの）が「一等有功賞」を受賞し、その品質の良さが全国的に認められました。



藍の移植作業の様子

しかし、ほどなくして、安価な外国産の藍の進出や、その後に続く化学染料の普及により、国内産の藍の販路は衰退の一途をたどります。そして、明治32年に滝本が生涯を終えてしばらく後、篠路一帯での藍栽培はその跡を絶ちました。

しかし、今でも興産社の名は「興産社町内会」として残っています。また、「あいの里」という地名や「英藍高校」の校名・校章にも藍が使用されているほか、愛好者による藍染活動を通じて地域文化として受け継がれています。

藍染め文化として復活した北区の藍

興産社の解散後、藍栽培が地域で見られることはなくなりましたが、昭和59年、北区民センターで藍染め講習会が開催され、その受講生が仲間と共に藍染めを始めたことが、サークル活動の先駆けとなり、藍染め文化として北区の藍は復活しました。

昭和60年10月には、藍染室が完備された篠路コミュニティセンターが開館し、ここが北区の藍の歴史を受け継いでいく中心的な場所となりました。篠路コミュニティセンターで開催された藍染め講習会を機に、藍染めに対する機運が高まりました。

◆藍との出会い

平成5年から10年にかけては、受講者が多すぎて藍染室だけでは収まらず、篠路コミュニティセンター敷地内に廃車のバスを利用した工房を開設し、その中で講習会を開催しました。ここでの受講生は5年間で約1500名にも上ったと聞いております。

平成6年8月には、藍染めの地域への普及と発展を目的に「篠路天然藍染振興会」が結成されました。同会の会員数は多いときには120名以上にもなりましたが、平成28年12月に解散となりました。

一方、平成23年4月には、3サークル会員18名で篠路コミュニティセンターを中心に活動する「篠路天然藍染協議会」が結成されました。同協議会は現在も活動しており、会員数は17名で私が代表を務めております。

藍染めとの出会い

一般的に藍染めを始めるきっかけとして多いのは、藍染作品に魅せられて染色技法を習得したい、作品を自分の手で作りたいといった理由が多いと思います。

私の周りでも、女性は子育てを終え充実した暮らしがしたい、男性は退職後を楽しく有意義な時を送りたい、との思いから始める方が多いです。

私が藍染めを始めたきっかけは、何か趣味として楽しめるものはないかと「広報さっぽろ」を見ていたときに「天然藍染入門10回講座」という講座に目が留まり、参加したのが始まりでした。当時は北区の藍栽培の歴史など全く知りませんでした。

この講座は、平成15年6月16日から7月9日まで開催されたもので、藍染液の製造から5つの基本的な染め方の技能までを習う内容でした。

そして、講座の終了後に仲間8人でサークルを立ち上げました。始めはハンカチやバンダナ、スカーフなどを染めることに没頭し楽しんでいましたが、縫製のできる人は染め上げた布をバッグやコートなどに加工したり、展示即売会に出品したりするなど、徐々に活動の幅を広げていきました。

そのうち、さらに高度な技法を教わりたと思

うようくなりました。実際に藍染めをやってみると、色々な染め方を習得したいという想いが強くなり、先輩たちと議論になったこともありました。

今後に向けて

私たちの活動目標は、篠路天然藍染を広く知ってもらえるように、技法を駆使した藍染作品を見せたいとともに、体験講座等を通じて、藍染めの楽しさや面白さを知ってもらうことです。

そのために、北区役所や篠路コミュニティセンターと連携し、藍染めに触れる機会を提供し、多くの方が気軽に参加できるような環境を整え、大々的な事業が展開できることを念願しております。



作品展の様子



小学校での藍栽培の歴史や藍染体験の授業

○お問い合わせ

篠路天然藍染協議会 代表 小笠原 善孝

TEL. 011-771-5460